

音更町で10月末、マンゴーが真っ赤に色づき始めていた。約750平方メートルの温室にさっと1800個。国産は通常春から夏に収穫するが、端境期の真冬に全て出荷する。

北海道 新しい かたちへ

第1部 再値上げの先に ④

「白銀の太陽」と命名したマンゴーは昨年、東京の百貨店で高いものは1個5万円超の値が付いた。

温室の季節逆転

「十勝の気候や資源を生かした新しい農業のモ

逆境逆手に企業変わる

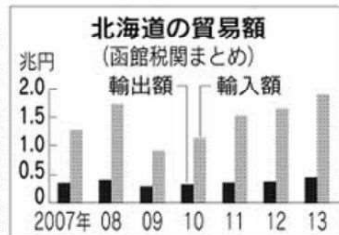


温泉熱などを活用し、真冬にマンゴーを出荷する（音更町）

「十勝の気候や資源を生かした新しい農業のモデルをつくる」。2011年、北海道電力の値上げは0年に同町でマンゴー栽培を始めたノラワークス道内経済にのしかかる。ジャパンの中川裕之社長だがエネルギーの制約を言いつつ、冬の北海道で南逆手に取り、ビジネスの国の果実が育つ秘訣は、かたちも変えられる。地域の自然エネルギーの徹底した活用にある。光熱費ゼロ。価格や居住性が優先されてきた住宅市場で、土屋ホームの川本謙副会長は「今後は受注が激減。存続をかけた。04年に道内でいち早

室の季節を逆になる」と断言する。転。夏の夜は涼しく冬の日と開発したスマートハウ照時間は長い。十勝特有の気象条件が効率を高める。二酸化炭素（CO₂）の排出を増やさず、中川社長がかつて本業として「工期は短くできま

省エネ、寒冷地技術磨け



海外進出例も

北海道の貿易収支は年1兆円を超える膨大な赤字。原油など燃料の多くを海外から輸入しているため、原発停止以降、赤字幅は一段と膨らむ傾向にある。ならばエネルギー消費を減らそうと、新たなビジネスも芽吹く。「無駄なエネルギーはまだまだ省ける」。札幌のベンチャー企業、エコモットの入沢拓也社長は強調する。音源ソフトウェア社から独立。ロードヒーティングを遠隔監視し、雪の量に応じて細かく操作するシステムを手掛ける。燃料費が約4割減らせるという。

く参入したのが地中熱事業だ。「寒冷地の北海道に最も適したエネルギーの一つ」と有我充人社長は話す。今期は10億円の売上高を見込むが、今や8割を同事業で稼ぐ。いちたかガスワン（札幌市）は北電から電力をまとめて購入し、マンシヨンの各戸に割安に供給する事業を来秋始める。北電の再値上げを機に、省エネルギー支援サービス（ESCO）事業への注目も高まる。今夏には

字幅は一段と膨らむ傾向にある。ならばエネルギー消費を減らそうと、新たなビジネスも芽吹く。「無駄なエネルギーはまだまだ省ける」。札幌のベンチャー企業、エコモットの入沢拓也社長は強調する。音源ソフトウェア社から独立。ロードヒーティングを遠隔監視し、雪の量に応じて細かく操作するシステムを手掛ける。燃料費が約4割減らせるという。いちたかガスワン（札幌市）は北電から電力をまとめて購入し、マンシヨンの各戸に割安に供給する事業を来秋始める。北電の再値上げを機に、省エネルギー支援サービス（ESCO）事業への注目も高まる。今夏には